

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105524		
法人名	合資会社 福寿万記の里		
事業所名	グループホーム福寿万記の里		
所在地	岡山市中区賞田265番地1		
自己評価作成日	平成22月2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22月3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>四季折々の料理を工夫して手作りしたり、医療面では近医による定期的な往診があったり看護師と連携をとり希望により看取りも行っている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>周囲の景観も緑も多く公共の施設やスーパー、観光名所等が近郊にある場所に建てられている。季節感を感じることが出来る空間づくりを3ユニットともに工夫されていた。看取りケアなど重篤な状況のケアを家族との連携に配慮されていることが窺えた。1階に設けられている地域との交流を目的としたカルチャールームには、寄贈されたひな壇などが飾られており活用されていることが窺えた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝礼時、理念の唱和を実施し、理念をふまえた上で一日の仕事のスタートとする	職員が「尊厳の確保・施設は家庭・規律の遵守」を唱和され、見配り気配り心配りを目指す姿勢が窺えた。	見配り、気配り、心配りを目指すリーダーの思いが職員間に一層深まることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や夕涼み会等を通じて地域の方に参加していただく事により交流を深めている	施設のイベントをきっかけに交流されて町内会や婦人会から情報ももらっているが現状地域で開催されるイベントには参加できてない。	参加へ向けて入居者の方がより多く参加できる機会（職員を厚く配置できる時など）を構築されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、地域の人と意見の交流をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3~4ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、行事報告やホームの新聞を渡したり外部へ向けて情報発信している	施設の現状に合わせた運営推進会議の開催がなされていました。	規定では、二ヶ月に一回の開催が求められていますので、出来るだけ規定どおりの開催を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターとは推進会議に出席の声掛け等行い又入退去時にも声掛けをしている	現在、地域包括支援センター、サブセンター支所等時あることに訪問し又電話で相談するなど連携に取り組んでいる。	開催案内先が分かる記録と出欠が分かる記録を残しておくといいいのではないか。案内先の参加が困難な場合は、窓口へ赴き連携を図り情報交換に勤められることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最悪拘束の必要が生じあ場合、家族と話し合い、了解を頂く。身体拘束ゼロハンドラック設置各Fあり	入院時拘束着を着用していた方が入所され家族と連携をとりながら全館あげて対応し拘束や抗精神薬の解消につなぐ事ができたケースがある。	これからも身体拘束ゼロの現状の維持に期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者クラスは虐待防止の研修等に参加し、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者クラスは成年後見制度については研修等に参加し制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は利用契約書を家族に説明し、同意書をもっている改定時も文書で説明し承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の家族等の意見・要望をきく為に意見箱を設置している。	設置しているボックスには、なかなか意見が入らない現状ではある(個人情報の保護を意識した記入用紙にするなどの工夫が窺えた)入居者の家族に家族代表を決めて参加してもらう形態を取っておられる。	来訪者へ口答意見だけでなくボックス活用を促す声かけの継続と、用紙にコメントの記入欄を設けるなどして書式変更をきっかけに投函呼びかけ等に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、主任会議や各階ケア会議を開催し、職員の意見を聞く機会を設け反映させている	月に1回の頻度で各階ケア会議や主任会議が開催されている。それ以外にも経理・運営・困難事例などあらゆる分野に関する職員有志が課題に取り組みその対策を試みている。	職員の自己啓発に対する意識の高さが窺えた。より多くの職員有志による課題・目標設定の継続を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に基づいて可能な限り環境整備に努めている。代表者は職員が向上心をもって働けるように職員の意見を積極的に聞くように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市又は各機関等からの研修に参加するように努めている。また法人として定期的に社内研修を実施しており資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は十分とはいえないが、事業所単位だけでなく職員個人としても情報交換や勉強会などがあれば積極的に参加できるように代表者も一緒になり取り組み、資質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居者には何を望まれているのか、何を不安に感じているか等を見出しスタッフ間で情報を共有する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家族の希望等をたずね、ケアプランに盛り込み職員一同が把握できる様に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時初回ケアプラン作成時、本人及び家族の意向を入れたものを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者同士や仲間等のコミュニケーションの仲立ちとなったり出来ることへの挑戦への支援を行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	その時々でご本人には家族の方の大切さを伝え家族の方にはご本人の最大の理解者である事を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、親族等の面会を快く迎え、ご本人との団らんの場を提供している	職員が利用者のバックグラウンドの把握に努め本人の尊厳の確保に努めようとする姿勢が窺えた。	来訪者が継続して来る事が出来る雰囲気作りに期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりのレベルを把握し話し相手、遊び相手になってもらえるよう、入居者同士の仲立ちとなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむを得ず入院された方等に対して、入居者が作った千羽鶴等届け、励まし家族への気遣いも忘れない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の要望を取り入れたプランに基づいて実施し、困難な場合は本人本位に検討し寄り添う介護を目指している	職員は、日々アセスメントする以外家族が来訪時にも必ずモニタリングとアセスメントを取られている。その記録の内容も「逐語」に徹している。	入所時1週間は、本人の発言すべてを逐語録として残されている。本人を知る上で重要なことですので、継続に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況シートに添って、これまでの生活環境、サービス利用等を把握し全職員で情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア会議等を通じ一人ひとりの今、出来る事等の現状を話し合い意見交換し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の中で個々の問題点やケアの仕方等の話し合い家族の意見も反映しながらプランを立てている	日々の本人の状態(日課・バイタル・排尿・便など)を記録し介護経過・業務の記録等々を基にプランを立て、実施表でチェックし現状に即した計画への取り組みがされている(随時変更がしやすいようファイリングの工夫がみられた)	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表への日々の記録特記事項の記載、モニタリングの実践により次のプランを見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間の融通、緊急で病院受診等する場合、家族対応できなければ職員が対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館を利用し、ビデオや紙芝居を借りたり公民館の講座の方に芸を披露してもらったりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に今迄のかかりつけの医師か施設と定形している医師か選択して頂き、月二回往診を受けている	岡山第一病院や清野内科医院も認知症に対する理解もあり随時連携が取れていることが窺えた。施設側の要請にも往診対応されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化があった時は看護職に伝え、場合によっては医師や家族とも円滑を取り合い柔軟に対応する		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院時は病状及び治療、退院の目途等主治医と連携をとり把握し早期退院に向けて病ういん関係者と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からとは言えないが重度化した場合等は主治医や家族と話し合いを持ち、今後の方針を共有し支援している	重介護を要する入居者のケアに当たった実績あり。エンゼルケアも施設内で行い看取りケアをスムーズに実施できた様子が窺えた。	ケアに当たられた職員のご苦労も窺えた。ケアマネージャーのプランの中でターミナル加算の算定も反映させて今後視野に入れたプランにされるとよいのでは？
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については勉強会等で学び、事故発生時の対応は定期的な訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難方法は定期的に専門機関による講習を受け、地域にも避難所確保の協力を得ている	3階建て3ユニットということもあり非常災害に関していち早く情報を収集し消防訓練に反映させるなどの意識の高さが窺えた。消防設備自主点検は毎日実施されている。	避難誘導では、出火場所から最遠位への移動で救出を待つ等3階建て特有の誘導方法が求められる。日中の夜間想定避難訓練の実施を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴、更衣、トイレ時等はプライバシーが守られる様、言葉掛けやケアに配慮している	介護職員が介助動作時、事前の声かけがなされていた。個人のペースに配慮する姿が窺えた。自室の施錠を希望される入居者の要望にも応えられていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が先に答えを出すのではなく、利用者本人が自己決定出来るよう、常に働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人に合ったその人らしい時間が流れるよう、本人の希望に沿って支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装等について本人の意欲を引き出す様言葉掛けに注意し支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考える時にも利用者に好みをききながら、食事の準備や片づけ等出来る方にはして頂いている	提供されるものは「手作り」を大切に美味しいと感じてもらえるよう調理方法や食材の選別に力を注いでいることが伝わってきた。入居者の調理参加も取り組まれている。	食事がすすまない方がおられたことがあるようです。嚥下体操など経口摂取継続できる支援も重要なことなので検討されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録を通じて職員同士、情報を共有し、食事や水分量が少なければ対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きやうがいの声掛けや必要な人には定期的な歯科の往診を受けてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意のサインを見逃さない事をテーマとして排泄への声掛け誘導をしている	要介護4の方が離床されシルバーカーを使用するまでに回復を観たケースがありました。オムツは夜間のみ。日中はリハビリパンツを基準に排泄の自立への取り組みが窺えます。	室内でのおむつ交換後、居室外への交換済みオムツを持ち出す際、オムツと分からないような目隠し的なアイテムの検討を期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として、水分補給や運動に気をつけている、排便チェックし記録されている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応入浴日を決めてはいるが本人の気分や体調によって、臨機応変に対応している	同姓介助を基本に入浴サービスを提供されています。本人様の要望に即した支援を心がけておられました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、自由に休息していただき、冷暖房の管理も行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬内容等については説明書がすぐ見える場所に保管しており、服薬困難な人にはゼリー等で服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には自室の掃除や下膳等していただき、レクリエーション参加による気分転換も行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の道を散歩したり、家族等の協力を得ながら美容院や図書館、近所のスーパー等へ出かけたりしている	季節感を感じる事が出来る外出支援は定期的に行われていた。	緑化フェアには参加できていたが、その他のイベントへ積極的な参加を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各々レベルに応じた対応をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出す事の支援や電話をかける事への支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の壁面には飾り付けをしたり心が和む様な模様にしたたり温度設定にしている	窓が多く開放的な空間であり、フロアのかざり付けも職員と入居者のお気に入り・自慢の作品が掲示されていた。	居室ポストと思われる所の故障が確認されました。今後より一層の営繕対応等に期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングより少し離れたソファやベンチ等で気の合う者同士が会話したりゆったりと過ごせる様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた家具等を置いたり、お花を飾ったり、居心地よく過ごせる様にしている	入居前に使い慣れた家具等の持込が実現されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のレベルに合った支援策を常にケア会議等で検討し安全で自立支援をモットーとしたケアを行っている		